

道彩会の思い出

新道展会員
グループ環会員
石狩美術協会会員

岩 佐 淑 子

第40回記念道彩展の開催と図録発刊を心からお祝い申し上げます。小堀代表をはじめ、今まで道彩会に関わって来られた多くの皆様方のご努力とご苦労とお喜びをひしひしと感じます。

小堀代表が新道展会員になられましたのは、第33回展（1988年）、退会は40回展でした。沖本先生と一緒に新道展でご活躍し続けて下さるだろうと思っておりました私にとりまして先生の退会は大変なショックでした。おそらく先生は道彩会のお仕事に集中し、その発展のために全力を尽くそうと決心されたのだと思います。

描くことが大好きであっただけの父（亀松行雄）をもなぜか創立会員に加えて下さり、亡くなるまでの15年間をお世話になりました。たまに実家に帰りますと、お若い会員の皆さんと話し合える楽しさをよく聞かされたものです。父の命令で道彩展の搬入のお手伝いにお邪魔しました事、懐かしい思い出です。皆さんのキビキビとした動きに圧倒され、明るい良い会になるだろうなあと、その発展を感じたものでした。

あれから40年。“水彩画を愛するあらゆる分野の人々を広く集め、刺激しあい、新しい表現と価値を認めあう広場を作ろう”と言う趣旨は達成されつつあり、道内外での公募展での皆様のご活躍もすばらしい事と思っております。

40年という一区切りの年月が過ぎ、全道各地からその趣旨に賛同して集われた水彩作家の皆様が期待される厳しさが待っていると思います。豊かな感性、深みのある色彩、流れるように自然に引かれたライン、的確なデッサンの上に描かれた様々な様式の作品、等々。でもこれらは永遠に続く与えられた課題と思いますし、日々の努力以外に解決できない事でもあるのでしょうか。と同時に、今、私自身がそれらを修得すべくその術を未だに探っているところです。今後も北海道の水彩作家の期待を背負っての皆様のご活躍を心から願っております。

改めて40回記念道彩展おめでとうございます。